



高等教育における 実務家教員の活用

学びと仕事、学問と社会をつなぐ実務家教員



文部科学省

実務家教員とは

企業等での高度な実務経験を活かし、高等教育で理論と実践の架け橋に

大学等において、学生の社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う機会を確保するという観点や、AI・IT等の新たな社会的ニーズが生まれている分野における高度専門人材の育成の在り方を革新する観点等からも、学部段階から、企業等と有機的に連携した実践的な教育の更なる展開が期待されています。この実現のためには、学問追求の観点と共に、様々な実務の観点を踏まえながら、学生の社会的・職業的自立等のために最適な教育課程と授業は何かについて、検討を加え、改善していくことが必要です。

こうした実務の観点を踏まえた教育課程・授業の改善を促すには、これらのプロセスに、実務家等の学外の人的資源を参画させることが重要です。特に、豊富な実務経験を有する実務家教員は、職業に必要な「知識・理論」と「実践的なスキル」の両方を身に付けさせる職業実践的な教育の担い手として活躍が期待されており、専門職業人材の養成を目的とする専門職大学や専門職大学院はもとより※1)、一般の大学等の高等教育機関における職業・キャリア教育や、労働生産性を高めることを目的とした社会人の学び直し（リスキリング、リカレント教育）等において、重要な役割を果たす人材とされています。しかし、教授能力や知見を有する実務家は、人数が十分ではなく、企業等での勤務との兼ね合いで時間的な制約もあることから、各大学が必要な実務家の参画を得られるかが大きな課題となっています。

このような背景も踏まえ、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」では、「質の高い実務家教員を確保するため、実務家教員の育成プログラムを開発・実施するとともに、その修了者の情報に係る共有の在り方を検討する」という方向性が盛り込まれました。

なお、令和4年度には、大学教員の流動性を向上させ、複数の学部のカリキュラムや先進的な教育プログラムの開発等に多様な教員が参画できるように制度改正※2)が行われ、民間企業等からの実務家教員の登用の促進といった人材確保の進展が期待されています。

※1) 専門職大学設置基準や専門職大学院設置基準において、実務家教員は「専攻分野における実務の経験（おおむね5年以上）を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者」とされており、必要教員数のうちの一定割合以上を配置することが規定されています。

※2) 大学設置基準等の改正による基幹教員制度の創設。



実務家教員養成の取組

質の高い実務家教員の充実

先述の通り職業実践的な教育の担い手として期待される実務家教員ですが、豊富な実務経験があるだけでは、教育者として学習者を成長させることはできません。実務で蓄積してきた経験知を學術者の視点から構成し直すとともに、教え方・学ばせ方の方法論を修得することが必要です。

そこで、文部科学省において、実務家教員の質と量を確保するため、「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」(令和元年度～令和5年度)により、実務家教員を育成するためのプログラムの開発、実施に対する支援を行ってきました。

全国で4つの中核拠点(代表校:東北大学、名古屋市立大学、社会構想大学院大学、舞鶴工業高等専門学校)が採択され、連携校と共にそれぞれの大学等の個性、特長を活かした実務家教員を育成するプログラムを提供しています(詳細は13、14ページ)。また、これら4拠点をとりまとめる運営拠点(代表校:東北大学)では、プログラムを修了した実務家教員候補者と大学等の採用をつなぐマッチングの場を提供しています(詳細は裏表紙)。



社会構想大学院大学



大阪公立大学(東北大学の連携校)



名古屋市立大学



東北大学



仙台青葉学院短期大学
ビジネスキャリア学科

学科長 教授

高野 宏輝

担当する授業科目 / マーケティング、流通論 など

リアルな現場に近い体験をカリキュラムに組み込み

実践的な教育の機会を提供

■ 経歴 ■

1989年株式会社日本交通公社(現株式会社JTB)に勤務、2015年同社を退職、2016年法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科修了後、中小企業診断士登録、仙台青葉学院短期大学ビジネスキャリア学科講師、2022年東北大学履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム(リーダーシップ開発力育成コース[立教大学])」修了、2023年東北大学実務家教員等養成のための研修講師養成プログラム修了、2023年より現職。

■ 実務家教員になったきっかけ

50歳を迎えるのを境に、経営コンサルタントとして独立を目指し、営業畑で26年間勤務した旅行会社を退職しました。中小企業診断士養成課程がある法政大学大学院で1年間学び、あわせて経営管理修士(MBA)を取得しました。

一旦は地元仙台で再就職を考え、就職活動を行いましたが、タイミングよく現在勤務する短期大学で講師の職に就くことができました。当初は、教員になることを想定していませんでしたが、専任教員として学生の成長を支援すべく取り組んでいるうちに夢中になり、教育に携わる仕事の本業となりました。多くの方々から学びの機会をいただき、学生と共に自分も成長したいという気持ちで充実した日々を過ごしています。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方
実務家としての貢献

自身のキャリアを探究するビジネスキャリア学科で、短大生にマーケティングを教えています。旅行やイベントなど、非日常の中でお客様に感動を与えるサービスを提供する仕事について、実務経験から得たリアルな出来事を織り交ぜて伝えています。

教員として、授業や学生を指導する際は、知識やノウハウの伝授以上に、自分や社会にとっての仕事の価値とは何かを考えてもらうことを意識しています。仕事には金銭を得る以上に大きな価値があります。山に登るのと同じように、目標を達成

するプロセスの中で、辛く苦しいこと、ワクワク、ドキドキするような高揚感や喜びが混在して起こってきます。一方的に話をしても学生には伝わりませんが、経験から語り対話すること、リアルな現場に近い体験をカリキュラムに組み込み、感じてもらうことで、仕事の醍醐味を伝えられないか工夫しています。実務家教員により暗黙知を伝えることで、「知っていること」から「できること」という段階にレイヤーをあげられるよう取り組んでいます。

■ 大学等における実務家教員の意義

日本の国力の低下が叫ばれる中、日本の未来を担う人材の育成は喫緊の課題です。不確実性の高い時代には、周知の事実が役に立たず、誰も答えを知らないことに対して、自ら考え、仮説を立て、行動の中から学び、変化に対して柔軟に対応し続ける人材が求められていると思います。そのためには、知識偏重ではなく、体験から学ぶ、個人だけでなくチームの一員として協働能力を高め、生涯学習し続けられる力をつける教育が必要ではないかと思います。

このような教育を進める上で、ビジネス現場で失敗も成功も重ね、仕事を通して揉まれてきた実務家の力が生きると思います。より多くの実務家教員が、より多くの学生に実践的な教育の機会を提供する社会的な意義は大きいと考えます。



関西国際大学
高等教育研究開発センター付

助教

福田 美誉

担当する授業科目 / 新学部創設に向けた学習体系・環境の構築

多くの知識をもって業務や課題解決ができる

「ハイブリッド人材」としての役割

■ 経歴 ■

2002年～複数のIT系企業でシステムエンジニアとして勤務、2011年～教育系企業でカリキュラム・教材開発に従事、2022年大阪公立大学履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム(アントレプレナーシップ教育力養成コース)」修了、2023年11月より現職。

■ 実務家教員になったきっかけ

29歳の頃、工学分野に精通し経営学分野の博士号を取得された実務家教員にお会いしたことがきっかけで、生涯学び、いつか複合型(複数分野)の専門家になりたいと思いました。その後、前職の教育系企業において、大学向け教材の開発に従事するとともに、教育工学やキャリア教育分野の先生方と研究活動をご一緒する希有な経験をし、教育に関わることにやりがいを感じるようになりました。漠然としていた願望を具現化しようと「産学連携教育イノベーター育成プログラム(AIBET)」を受講しました。

企業人として華々しい業績はないタイプですが、教育と研究に対する思いを持ち活動を続けたことが実現につながり、現在は情報系学部創設に向けてオンデマンド学習環境や経験学習プログラムの構築に取り組んでいます。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

大学教員の4つの活動の柱「教育」「研究」「学内運営」「社会貢献」いずれにも実務経験を活かしています。まず教育は、産学連携プロジェクト科目の学習体系の構築に取り組んでいます。また、今後は、システムエンジニア時代のシステム開発プロジェクトの経験を活かし、関連の授業をする予定もあり、これは理論と実務を紐づけつつ、成功・失敗経験を織り交ぜながら、リアルを伝えていきたいと考えています。研究については、行政が企業に対し公募す

る事業補助金の提案書作成が、科研費申請時の研究計画調書作成と共通点が多く、その時の経験値を活かし取り組んでいます。

学内運営は、教職員の皆様と共同で活動することが多くありますが、企業内で上司・同僚とコミュニケーションをとっていた時と同様に、より良い人間関係を作っていく必要性を感じながら向き合っています。社会貢献はこれからですが、様々な企業や団体とのこれまでの関係性を活かしていきたいと考えています。

■ 大学等における実務家教員の意義

大学は、産学連携教育、キャリア科目などの実践をするうえでも、産業と学術の両方を知る実務家教員の活躍の場は多くあると考えます。また、多くの大学で教員の多様性を確保しようとする動きがありますが、私も創造的な研究や教育活動が生まれるためには、実務家教員が他の教員とは違う視点の意見を出しながら学内運営に参画することが有意義であると感じます。

教育・研究で必要とされる知識や分野は近年ますます激しい変化を遂げており、複雑さも増えています。実務家教員には転職や起業等を通じて豊かな経験を重ねている社会人が多く、複数分野をつなぎ、多くの知識をもって業務や課題解決ができる「ハイブリッド人材」としての役割も担うことができると考えています。



埼玉大学 大学院
人文社会科学部

非常勤講師・客員教授

木村 洋一

担当する授業科目 / 公共政策と現代企業経営

研究者教員と相互補完して

教育研究活動の質的向上に貢献

■ 経歴 ■

1991年に日本貿易振興機構(ジェトロ)に入り、二度の米国駐在などを経て、現在はシンガポール勤務。海外調査、日本企業の海外展開支援などに従事。本業の傍ら、2020年4月から実務家教員を務める。2022年9月に社会構想大学院大学で実務家教員養成課程を修了。

■ 実務家教員になったきっかけ

日本企業が直面する国際経営上の課題やグローバルビジネスの潮流を「実務の視点」を交えて講義しています。官庁から出向で来ていた上司がポストを譲ってくれたのがきっかけで、半ば“仕方なく”受けるような格好でした。さっそく授業の資料作りが捗らず、授業が終わっても次週の資料作りで週末を潰す始末であり、学生の反応や考えを見取りながら、どうしたら双方向的に授業を運営できるのか試行錯誤の連続でした。

ただ「やりがい」も感じ始めていました。モチベーションになったのは、ぼんやり考え始めていた自身のライフワークに繋がったことです。「内向き志向」の若者が増えていると言われる中、海外に目を向ける人材の育成・教育に何か携わりたいと考えており、実務家教員への着任はそれを実現させてくれました。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

学問的な枠組みの中に、自身の実務経験を位置付けることを心掛けています。実務家教員は「実務の実際」、「最新の動向」、「企業の生声」を知っています。しかし、それらを「先人によって蓄積された学問的な枠組み」にしっかり位置付けて授業を構成したいと考えています。

実務家教員だからといって、実務的な内容を並べ、単に組み合わせただけでは、体系化された授業にはなりません。まず学問的な枠組みを確認し、「実務

の視点を交える」ことで、学生の理解を増進したり、学生が自身の問題と捉えて考えることを後押しするというスタンスを心掛けています。

このため、専攻分野の入門書、教科書を網羅的に読み、アカデミアの世界でどのような形で事象が整理され、理論として括られているのかをまず頭に入れるようにしました。その上で実務家教員としての自分の色を出したいと考えました。

■ 大学等における実務家教員の意義

私の授業の目的地は、学生に身の回りの経済活動が地球規模のビジネスに密接に関わっていることや、日本企業が新興国企業による激しいキャッチアップに苦戦している現状を知ってもらい、将来、そうしたグローバルビジネスの一翼を担ってみたいという意欲をかき立てることです。

実務家教員は、ビジネス現場の生々しさや感動、驚嘆を、自身の体験や疑似体験として躍動感を持って学生に伝えることができるかもしれません。しかし、研究者教員のように、概念的・体系的な議論を行いにくいという弱点があります。実務家教員は、研究者教員と相互補完して、教育研究活動の質的向上に貢献しようという気概を持たなければいけないと考えています。



文化学園大学
服装学部ファッション社会学科
教授
小松 浩一

担当する授業科目 / マーケティング論、日本経済・産業特論

経済社会を生きてきた

実務家教員ならではの視点からの教育

■ 経歴 ■

1984年慶応義塾大学経済学部卒業、(株)伊勢丹(現三越伊勢丹)入社、営業本部スタッフとして企画・店舗開発・マーケティング等に携わる。2021年5月定年退職、2020年度 社会構想大学院大学 実務家教員養成課程修了、2022年度より現職。中小企業診断士、一級販売士。

■ 実務家教員になったきっかけ

元々教員志望だったことに加え、前職在職中も社内外で研修や講演、執筆活動を行っていたことから、次の世代に伝えていけることがあるのではないかと考え、本業の傍ら専門学校や各種セミナーの講師として活動を行っていました。

しかし、できれば長く続けられるポジションに就きたいと考える中で、社会構想大学院大学の実務家教員養成課程と出会い、自分が過ごした40年前とは様変わりの「イマドキの大学」を知り、その後の様々なご縁の中で現在の仕事に就いています。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

デジタル&情報社会を所与のものとして生まれ育った現代の大学生＝リアルZ世代に対して、過去の仕事の「自慢話」は通じません。そもそも今時の大学運営の仕組みの中でシラバス作成や授業構築を行うためには、自分がこれまでの職業生活で得た知見を総ざらいして、アカデミズムを横目で見ながら再構成することが不可欠です。この「横目でみる」ということがとても重要で、様々な概念や理論をそのまま説明するのではなく、いかに「これが実社会やビジネスの現場だとこうなる」という形で、身近な事例をもって説明できるかがポイントです。

例えば、脱炭素やサステナビリティについても、なぜ各企業が多大の負担と手間をかけて取り組んでいるのか、単なる自然環境保護論や循環経済論に止

まらず、IRや人事採用、投資の呼び込みを含めて、各企業が生き残るために経営上取り組まざるを得ない状況にある、というように資本主義ビジネス社会の現実と共に伝えることが重要と考えます。

■ 大学等における実務家教員の意義

学術研究系の教員との違いについては、私はあまり意識する必要はないと思います。なぜなら動機や研究実績は異なるものの、「対学生」という点においては「いかに良い影響を与えることができるか」という点において、果たすべき役割は同じだと考えるからです。一方で、民間企業のマネジメント(組織・業務運営)の観点から見ると、大学の業務運営は「カイゼンの宝庫」であり、実務家教員の感覚で効率化できる事務や業務は山ほどあります。また、少子化するマーケットを前に、大学が組織体としていかに存続していくかについても、経済社会を生きてきた実務家教員ならではの視点があります。

授業や研究コンテンツとして産学連携をすすめることはもとより、これからの大学のあり方について地に足の着いた提言や作用を及ぼす事も、実社会を生き抜いてきた実務家教員の存在意義ではないかと考えます。



目白大学
人間学部子ども学科

助教

青木 隆男

担当する授業科目 / 保育所実習、施設実習、子どもと人間関係

現場で積み重ねられてきた

実践的な知識・技術の伝授

■ 経歴 ■

保育所・認定こども園・児童館で10年余り勤務。2021年3月に日本社会事業大学大学院 福祉マネジメント研究科 福祉マネジメント専攻を修了。2022年4～9月に社会構想大学院 大学 実務家教員養成課程を受講・修了。2022年11月から現職。

■ 実務家教員になったきっかけ

私は、保育士資格を取得後、保育所・認定こども園で11年間保育士として働いていました。日々子どもや保護者と関わる中で、保育士の専門的な知識・技術を活かした実践を言語化・理論化したいと思うようになり、専門職大学院に入学をしました。

大学院では、自身の保育実践を振り返るとともに、様々な分野の福祉現場で活躍をしている人たちと交流することもできました。そこで、新しい視点から多角的に保育や現代社会の課題を捉えることができ、改めて保育士が担う役割の重要性に気付くことができました。また同時に、現場で実際に保育を担っていく新しい人材を育てる必要性も強く感じるようになり、自らの実務経験を活かして保育士の養成に携わりたいと思うようになりました。このことが、実務家教員を目指すきっかけとなり、その後、児童館での実務や保育士養成校での講師経験を経て、現在は目白大学で保育士養成に携わっています。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

保育所・認定こども園・児童館で働く中で、各現場の保育者が行う専門的な知識や技術を活かした実践を目の当たりにしてきました。この経験は、大学で授業を行う上でも私の基盤となっています。大学では、具体的な事例の紹介や保育現場(実習)で役立つ実践的な知識・技術を伝える等、常に保育者の視点をこころがけ、授業や学生指導を行っています。

実務経験を活かした授業や学生へのアドバイスは実務家教員ならではの強みであると考えています。

研究活動では、保育現場で日々行われている「実践」と「理論」の融合を目指して研究に取り組んでいます。保育現場で積み重ねられている知恵や気付きは、言語化・理論化されていないものも多いと考えています。現場で働いている保育者の声を聴きながら保育の現状や課題を調査し、保育実践に学術的な観点を融合させ、より実証的で現場に役立てていける研究を行っていきたいです。

また、自身の実務経験を活かした教育研究活動を通して、「大学」「学生」「保育現場」をつなぐ架け橋としての役割を担っていきたいと思っています。

■ 大学等における実務家教員の意義

現在、大学での業務だけでなく、専門高校(保育科)の生徒を対象にした授業も行っています。授業では、座学だけでなく実際に児童館へ出向いて見学をし、生徒が中心となり「親子ふれあい遊び」の企画・実践を行いました。次世代に保育の楽しさを伝え、保育士を目指す人材を増やしていくことも実務家教員に期待される役割の1つであると考えています。

また近年では、保育士に対するネガティブなニュースを目にすることも多いですが、保育士の社会的意義や高い専門性を社会全体に伝えていくことも実務家教員に求められる重要な役割であると考えています。

今後も、実務家教員として様々な世代や機関と連携し、保育分野のさらなる成長・発展に貢献をしていきたいです。



東海学園大学
経営学部

准教授

成田 亙

担当する授業科目 / 広告論、デジタル・マーケティング など

持ちうる実務経験を還元し

能力が最も活かされる形で大学や地域社会に貢献

■ 経歴 ■

1986年～2020年、株式会社電通にて勤務。2021年1月、BLUEGRAY advisors を起業。
2021年4月～名古屋市立大学進化型実務家教員養成プロジェクト(2022年3月修了)。
2021年9月～中部大学人文学部非常勤講師。2022年4月～現職。

■ 実務家教員になったきっかけ

父親が高校教師だったこともあり、学生時代にぼんやりと教員に魅力を感じた時期がありましたが、会社員になってからは仕事が面白く、長らく教員になるなど意識することもなく、実務に邁進していました。

独立起業後に知人から大学の非常勤講師の依頼があり、自分の幅を広げる意味で軽い気持ちで受諾しました。ところが、いざ講師として教えるとなると様々な知見や指導能力が必要になるとわかり、「教えること」の勉強ができる場はないかと探す中で本養成プロジェクトの存在を知り、応募しました。初めて知ることばかりで、多くの刺激を受けながら受講を続けている中で、偶然自分の専門分野での教員募集を JREC-IN※で見つけ、応募したのが実務家教員になった直接のきっかけです。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

実務経験を以下の3点で活かすことを実行しています。①産学連携のための企業プロジェクトを推進し、企業と大学の橋渡しを行う、②最前線で活躍する専門家を大学に招き、学生が直接対話し、刺激を得る機会を作る、③実務家時代の新卒採用経験から、学生に就活に関する企業側の情報提供や、企業紹介を行う。時間的には大変ですが、大学教員とは別に自ら専門分野の事業を営みながら大学では専任教員として授業を担当しています。それは最前線の

知見や情報をリアルに更新し続けるためです。私の専門分野では知見の陳腐化が特に激しく、“元実務家”では実務経験を十分に生かし切れないと考えており、大学教員として活動しながら専門分野の現場にも継続して身を置くことは、実務家にとっての1つの研究のあり方でもあると考えています。

着任して気づいたのは、大学教員は意識して行動しないと学内と学会以外の社会との交流がなくなってしまうことです。学生も教職員も大学の外に出て、広く社会とコミュニケーションを取り、情報を得ると同時に情報発信していくことがこれまで以上に大事になると思います。

■ 大学等における実務家教員の意義

一口に実務家教員と言っても、実務経験の内容や専門分野、社会的な影響力、学術的な背景など様々で、“求められる実務家教員像”のようなものはなく、百人百様だと考えています。その人の能力が最も活かされる形で大学や地域社会に貢献し、持ちうる実務経験の還元をすることが大事で、そのためには大学側と実務家教員とでその人の役割認識を一致させることがよいのではないかと思います。

大学は教育職員と事務職員が一緒になって学生の育成を行うものですが、これまで双方がしていないこと、できないこと、思いつかないことを進めるのが実務家教員の存在意義だと考えます。委員会運営や学生募集等においても、違った視点での試みができるのではないのでしょうか。

※大学、公的研究機関、民間企業などの研究人材向けの求人公募情報を公開しているポータルサイト。



舞鶴工業高等専門学校
社会基盤メンテナンス教育センター

特命助教

掛 園 恵

担当する授業科目 / 橋梁点検・調査・診断の現場演習

技術と経験の棚卸により

“形式知”化された学びの継続的提供

■ 経歴 ■

2001年～現在 日本ミクニヤ(株)にて勤務、2016年～現在 舞鶴高専 i Mec 講習会現場講師、2017年～現在 岐阜大学非常勤講師、2021年に舞鶴高専で実務家教員育成研修プログラムを受講・修了。

■ 実務家教員になったきっかけ

私は、高専で土木を学び、就職してから現在まで橋梁やトンネル等、社会インフラの調査・点検・診断の現場に携わっています。インフラメンテナンスの第一フィルターとも言える“点検”には、高い技術と倫理観を持ち合わせた技術者が携わるべきであると考えています。一方で、インフラの設計・調査・点検・診断・修繕に関する一連の知識と技術を有し、地域に貢献できる技術者の育成には、長い時間を要します。

この大きな課題を解決し地域社会の安心安全を守り続けるためには、多様な主体による技術者育成のトライアルが必要であると考えていた私にとって、全国5高専によるインフラメンテナンス分野のリカレント教育の取組は、理想と現実のギャップを埋める一歩を踏み出す出逢いとなりました。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

2021年に受講した“実務家教員育成研修プログラム”では、実務を通じたこれまでの経験を棚卸し、授業デザインや教材開発を学び、“教える”ために必要な能力を修得しました。現在、私は実務家教員として、“橋梁点検”のリカレント教育において、現場技能と技術を教えています。講義テーマは日頃携わっている実務そのものですが、教える相手の学歴、実務経験、立場、年齢等は実に多様です。

教員として教えるに当たっては、相手の理解度に合わせて柔軟に対応するとともに、橋梁点検の現場で“経験”により得てきたことも“知識”として共有することを心がけています。

一方、インフラメンテナンスの実務の現場では、日々、新しい課題が発生しています。現場と実務の平行キャリアだからこそ、現場の最前線で新しい課題に触れ、技術者としてアップデートしながら、教育活動に還元することができると自負しています。

■ 大学等における実務家教員の意義

高専や大学で実務家教員として活動するようになってから、日頃の実務における知識や経験の多くが“暗黙知”であることを認識しました。実務家教員として、インフラメンテナンス分野の技術と経験の棚卸をし、“形式知”化された学びを提供し続けることは、私自身の継続研鑽にも繋がっています。



リカレント教育は学ぶ側・教える側ともに実務家であることが多く、対話の中で新しい発見や気づきがあります。「伝える」だけでなく、「ともに学び続ける」ことを念頭に今後も取り組んでいきたいと考えています。



駿河台大学
経済経営学部

特任教授

式場 朝夫

担当する授業科目 / ホテルビジネス入門

業界の幅広い人脈を活かして

「入口戦略と出口戦略」への実践的な貢献

■ 経歴 ■

1981年立教大学法学部卒業、同年(株)帝国ホテル入社、東京・大阪・上高地の各ホテル及びホテル運営子会社にて勤務、2015年～東京エアトラベル・ホテル専門学校に外向、担任を経て副校長。2021年定年退職後、社会構想大学院大学 実務家教員養成課程受講・修了。2022年から現職。

■ 実務家教員になったきっかけ

ホテルでの40年間におよぶ多彩な実務経験、特に人材育成部門と出向先の専門学校で教育に携わった経験を活かして、ホテル業界の将来を担う世代を「大学」というステージで育てることを、定年退職後のライフワークにしたいと考えていました。

しかし、実務経験をどの様に体系化して大学教育のカリキュラムとして確立させ、教員として指導出来るか、専門学校での経験をもってしても不十分だと考えていたところ、社会構想大学院大学の実務家教員養成課程を知り受講しました。半年間の授業で大学教育における実務家教員の在り方と、これまでの自らの実践知を理論として体系化させて伝える方法を学ぶとともに、大学への就職活動にも取り組み、駿河台大学で教える機会を得ました。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

「実務経験の棚卸と体系化」と「実践と理論の融合」が大切であると考えています。受講した実務家教員養成課程の中で、実務経験の棚卸と大学教育に落とし込むための体系化を学びました。

コロナ禍でホテル業界の様相は一変、価値観の多様化も急速に進み、これまでの理論が現場に適合しない時代となりました。過去を整理して伝えることは出来ても、この先はもちろんのこと現在を語るためにも、実務経験に基づく「実践知」の体系化に加えて、これまで培った業界の幅広い人脈を活かした

最前線の情報収集による知識のアップデートとその体系化に引き続き取り組んでいます。また、私自身の経験も含む業界での実例を交えながら授業を進めており、学生達もリアルな話に目を輝かせながら、自然に理論の理解も進みます。業界の最前線での実務経験という「実践知」に基づく豊富な「引き出し」を持つ実務家教員が教育研究活動に加わることで、学生達は理論を自分のものとしてより一層深く理解することが出来るということを実感しています。



■ 大学等における実務家教員の意義

本学では「充実した実学教育」を特色の一つとして掲げ、「実務経験豊富な特任教員からビジネスの現場を学ぶ」と公式HPでも謳っており、その実践のために私が居る意義があるわけで、ホテルに興味がある高校生の入学を促すために、オープンキャンパスでもホテルの実践事例を題材とした模擬授業を行っています。一方で、入学者獲得には、業界への着実な就職実績も必要です。ホテルへの就職に関しては、所属ゼミの指導教員やキャリアセンターを通じたサポートに加えて、私が学部を超えて個別に相談に乗り、本人の希望や特性とそれぞれの企業とのマッチングを、これまで築いた業界の幅広い人脈を活かして進めています。この様な「入口戦略と出口戦略」への実践的な貢献が、実務家教員に対する大学の期待の一つであると実感しています。



大阪大谷大学
人間社会学部人間社会学科

教授

藤原 崇

担当する授業科目 / 経営学概論、経営管理論、キャリアデザイン

企業の人事関係に精通している強みを活かし

大学生のキャリア形成を支援

■ 経歴 ■

1991年より三菱電機株式会社に勤務し人事業務を担当、2002年より三菱UFJリサーチ & コンサルティングにて組織人事コンサルタントとして勤務、2021年熊本大学履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム（インストラクショナルデザイン指導力育成コース）」修了、2022年から現職。

■ 実務家教員になったきっかけ

企業に勤めつつ、博士号取得のために大学院に通っていました。その段階では自身の社会人経験の集大成のつもりで取り組んでおり、特に大学教員になることを意識していた訳ではありませんでした。

その後、大学での非常勤講師を経験し、産学連携教育イノベーター育成プログラムを受講する中で、大学教育に興味を持つようになりました。企業の実務担当者やコンサルタントとして、企業人事に長年携わっており、様々な企業の実態と、そこで働く人々の実情に精通しています。それらの経験や博士号取得の過程で整理した知見を大学生に伝え、社会人に向けた成長を支援することを志してこの世界へ飛び込みました。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

大学で学生を指導する際は、より具体的な事例に即した講義や演習を展開しており、具体的には関係のある企業への見学や訪問、企業が実際に有する課題に対する解決策を提言するプログラムをゼミナールに取り込んでいます。また、企業の人事関係に精通している強みを活かし、大学生のキャリア形成を支援する教育にも携わっています。複数のキャリア教育科目の担当に加えて、個別に学生のキャリア相談に乗るなどの支援を行っており、令和6年度から大学のキャリアセンター長に就任しました。

研究では、コンサルタントの経験を活かして、企業

の課題解決への助言などを行っています。そこで得た企業とのつながりを活かし、組織や従業員に関するデータ収集に協力頂き、実証研究につなげられるよう努めています。

また、既知の他大学の先生方が定期的で開催する自主的な勉強会にも参加しており、実務経験を活かして、研究対象となる企業の紹介など、企業への助言を行われる先生方をサポートしています。

■ 大学等における実務家教員の意義

アカデミックキャリアを築かれた先生方は専門分野で非常に深い知見をお持ちであり、実務家教員は自ら実務の世界での経験や直観などを通じて得た、それとは質の異なる知見を積み重ねてきています。実務家教員の役割は、研究面では、専門分野の知見に対し、実務家の観点から異なった視点で知見や仮説を提供することができることでありと考えると考えます。

一方の教育面では、学生たちが大学で学ぶ理論や知見が実社会とどう結びつき、それを学修することが具体的に自分が社会に出た後でどう役立つのか、理解を深めさせることだと考えています。その意味では、自らの経験だけに拠って立つのではなく、大学内外で専門分野の知見と照らし合わせながら、研究・教育に取り組むことが大切だと思っています。



徳島文理大学
人間生活学部建築デザイン学科
教授
上田 泰史

担当する授業科目 / 環境保全論、住居環境学、住宅設備論 など

教科書やネットでは得られない実務経験を伝えながら 会社が求める人材養成に貢献

■ 経歴 ■

1983年～2018年ダイキン工業勤務、2018年～2020年京都大学大学院生物センシング工学研究室ポスドクターフェローとして留学生の研究支援指導を実施、2021年度東北大学履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム（アントレプレナーシップ教育力育成コース〔大阪府立大学〕）」修了、2022年より現職。

■ 実務家教員になったきっかけ

ダイキン工業で勤務する傍ら大学の非常勤講師を務めていましたので、元々大学教育に関心を持っていました。その際、担当科目の教え方や評価方法は自己流で、特に専門的な知識があったわけではありませんでした。ダイキン工業定年退職後の再雇用期間途中で京都大学大学院ポスドクターフェローとして大学院生の研究支援業務の機会を得て、ダイキン工業を完全退職して京都大学に移りました。

留学生中心の学生と接する際に実務経験を伝えることが沢山ありました。2021年夏に現勤務先である大学の学科から、環境関係の博士号や技術士の資格を有し、大学環境関連科目の講義担当可能な教員の条件に合うということで、採用のお話をいただいたことが現職に至るきっかけです。

■ 教育研究活動への実務経験の活かし方 実務家としての貢献

大学では、学生が将来、仕事の現場で直面する事例など、教科書やネットでは得られない実務経験を伝えながら講義を行っています。教育研究活動も会社業務も、なんらかの目標を設け、それを達成するために様々な準備を行うことは同じです。

私はどの科目も講義の最初に「ありがたい姿（理想）」と「現在の姿（現実）」との乖離を「問題」として位置づけ、この「問題」を解決する手段を「課題」として整理することを学生に実務経験（会社時代のクレーム対応等）の失敗事例も交えて伝えてい

ます。資格試験を目指す学生には、資格合格に必要な実力と現状の実力との乖離を問題として捉え、その乖離を埋める課題（取り組むべき学習量）を明確にして日々の学習に活かす指導を行っています。

また、就職指導の際には「メンバーシップ型雇用」と「ジョブ型雇用（スキル証明の資格）」の違いを私の実務経験から指導に活かし、会社が求める人材養成に貢献しています。

■ 大学等における実務家教員の意義

従業員と経営層が同じ方向で業務を遂行することを会社として目指す際の仕組みとして、品質・環境ISOマネジメントシステムという考え方があり、これを担当する授業や専門ゼミで取り入れています。学生が新入社員として配属される部署で受ける研修や、与えられた仕事を通じて成長していくプロセスも、会社という組織の中でシステム化されていることを伝えていきます。学生のうちに会社での業務の進め方として、マネジメントシステムを実務経験と共に実務家教員から学ぶ意義は大きいと考えています。

ともすれば、入社した会社での自身の仕事の意味がよく分からず、自分の居場所や会社にいる意義を見失いがちなリスクを学生時代に学んでおくことで未然に防ぐことができます。

「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」で開発した 実務家教員育成研修プログラム

アントレプレナーシップ教育を担う実務家教員の育成を目指します

履修証明プログラム「産学連携教育イノベーター育成プログラム」

アントレプレナーシップ教育力育成コース

<https://www.omu.ac.jp/las/jitsumuka/>

■実施校：大阪公立大学

定員 25名

受講料 300,000円

応募要件 下記、①②の両方を満たす者。

期間 7月頃～2月頃
(約8ヶ月間)

①大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者

②原則として専門的技術的又は管理的な職務において5年以上の実務経験を有する者



「産学連携教育イノベーター育成プログラム」は、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現と、未来を拓く人材を各界へ輩出するため、その中心的役割を担う実務家教員を育成することを目的としています。「アントレプレナーシップ教育力育成コース」では、起業や企業での新規事業開始に当たり必要な基礎知識を学ぶとともに、それらを指導・教育するための手法や技能を習得すること、特に、高度な科学技術研究成果の事業化や産業化を例に、起業、事業化の考え方やプロセスを学びます。複数の事例に基づく実践的な演習に取り組むことで、技術マネジメントの幅広い知識とアントレプレナーとして必要な素養の修得と効果的な教育手法の体得を目指します。

研修プログラムは大学教育基礎力科目、汎用的教育実践力科目、専門領域別科目、教育イノベーター実践演習科目の4つの科目で構成されています。全科目を履修することにより、大学教員として教育を担うための基礎的知識・技能・態度をはじめ、専門領域における教育実践力、学びと社会を繋ぐ実践知・学術知往還および学習成果のエビデンスに基づく教育変革を先導する「教育イノベーター」としての変革力を身に付けます。専門領域別科目の演習の一部は、大学院生が履修する正課授業「イノベーション創出型研究者養成」と合同で実施します。受講生は演習に参加しながら、講師が学生に対して講義の様子を観察するとともに、学生に対する模擬指導に取り組みます。最終科目では受講生が自ら構想した新規取組案について成果発表を実施します。

修了生には、実務家教員として大学教授や助教になられた方や、企業等に勤務しながら大学等の非常勤講師・ゲスト講師を務める方がおり、実際の教育現場で実務家教員として活躍しています。

経験知を体系化し、教える技術を身に付ける

実務家教員養成課程

<https://www.coep.jp/>

■実施校：社会構想大学院大学

■連携校：日本女子大学

定員 ●水曜夜クラス 12名 ●木曜昼クラス 18名

●土曜午前クラス 42名

●土曜オンラインクラス 42名

武蔵野大学
事業構想大学院大学



受講料 350,000円

期間 4月～9月または10月～3月(約6ヶ月間)

受講対象 大学・専門学校・各種学校等の実務家教員を目指す者、民間企業や官公庁等で培った実務経験を体系化し、次世代に継承したいと考える者

実務家教員養成課程は、専門性を問わず、教えたいすべての方に実務家教員として活躍するための素養と競争力の双方を提供する教育プログラムです。具体的には「実務経験を活かして、大学教員(実務家教員)を目指す方」「実務経験を活かして、研修講師を目指す方」「実務家教員として教育・指導力を強化したい方」「研修講師としてカリキュラムそのものや研修効果を改善していきたい方」を対象としています。本課程のカリキュラムは、実務家教員に必要とされている「実務経験を言語化する力=実務能力」、「実務経験を体系化する力=研究能力」、「学習意欲・成果を最大化する力=教育指導力」の3つの能力を身に付けることを目標としています。講義だけでなく、グループで相互に学びあう「研究会」、実務家教員として活躍している修了生による講演や意見交換を行う「キャリアパス」といった回もあり、様々な授業スタイルで実施しています。

また、実務経験の体系化に向けて、大学の学部生を対象とした15コマ分の授業(シラバス)を設計し、最終回ではその1コマ分の模擬授業を実施してもらいます。この成果は、大学での授業のほか、企業研修や生涯学習などの教育場面で応用することができます。授業は一部を除き対面とオンライン配信を合わせたハイブリッド方式で行います。受講生は、対面受講かオンライン受講のいずれかをその都度選択して受講できます。全ての回をオンラインで受講することも可能なため、全国各地の方に受講いただいております。

これまでの修了生は、高等教育機関の実務家教員になられた方から、本学の研究科等の大学院への進学、学会等での継続学習に臨む方もいらっしゃいます。その他、キャリアアップを目的として受講された方は、経営者・公務員・キャリアコンサルタント・研修講師・社内研修担当者など、それぞれに活躍されています。

「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」で開発した 実務家教員育成研修プログラム

PBL(課題解決型学習)とIPE(多職種連携)を重視したプログラム

進化型実務家教員養成プログラム

<https://teep-consortium.jp/>

■実施校：名古屋市立大学

■連携校：岐阜薬科大学
高知県立大学
中京大学

定員 基本コース 15名
専門コース 3～5名

受講料 基本コース 152,600円(名古屋市住民等の場合は142,600円)
専門コース 130,000～152,600円

期間 基本コース 6ヶ月
専門コース 6ヶ月～1年(業務都合により長期履修を希望する場合は1年6ヶ月)

応募要件 実務経験が合計5年以上で、プロジェクトリーダーの経験があり、
実務経験を活かした教育・研究に意欲的で、TEEP運営委員会が適切と認める者

進化型実務家教員養成プログラム



進化型実務家教員養成プログラム(TEEP)では、基本コースと5分野の専門コース(「減災・医療」、「まちづくり」、「経営実務」、「心理カウンセリング」、「スポーツ実務」)の2段階の履修証明プログラムを提供しています。それぞれの専門領域で社会変動に伴う諸課題の解決や社会的ニーズに応えることのできるPBLやIPEに関する高いプランニング能力を修得し、実務経験を語るだけでなく、教育と実社会の段差をなくすための教育を担える人材、実社会と研究を融合できる人材、職種や組織を横断してリーダーシップを発揮できる高度専門人材として進化型実務家教員の養成を目指します。

基本コースは、進化型実務家教員になるうえで必要不可欠な教育力を高め、新学術領域での課題解決力を養い、学びの場を設計できる能力を修得します。専門コースは、実務領域の専門性をはっきりさせ、研究力を高める準備をします。受講に当たっては「実務領域診断カルテ」を活用して、実務家教員としてのコンピテンシーを把握し、各受講者に必要なキャリア開発支援を行います。また、社会人が受講しやすいように、事前視聴用のe-ラーニング、オンライン授業を活用し、対面授業は土日祝日、夜間等の集中講義で実施する他、受講生の学びをサポートするチューター制を導入し、受講を順調に進めるための支援や、受講中の不安を解消し、スムーズな学習を可能にします。

名古屋市立大学では、キャリアデザインや大学での学び方を教える授業等で、TEEP修了生が非常勤講師として、学生を指導する機会を提供しています。また、TEEPで修得した教育力やファシリテーション力は、より有効な会議を設計できる、部下へ適切な指導ができる等、企業内でも役立てることが出来ます。

インフラメンテナンスを教える技術を学ぶ

実務家教員育成研修プログラム

<https://www.maizuru-ct.ac.jp/kosen-reim/>

■実施校：舞鶴工業高等専門学校

■連携校：福島工業高等専門学校
長岡工業高等専門学校
福井工業高等専門学校
香川高等専門学校

定員 10名

受講料 275,000円

期間 6月中旬頃～2月頃(約8ヶ月間)

応募要件 技術士又は国土交通省登録資格等の技術資格保有者であり、
建設分野で10年以上実務経験があること



舞鶴工業高等専門学校及び連携高専(福島、長岡、福井、香川)では、「KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築」(KOSEN-REIM)として、地方における建設技術者の技術レベル向上を目指すリカレント教育や、人材育成・技術継承の担い手となるインフラメンテナンス分野の「実務家教員」の育成に取り組んでいます。

『実務家教員育成研修プログラム』は、建設領域に特化した少人数制のプログラムであり、熟練の建設技術者を対象としています。eラーニングと講習会を組み合わせることでアクティブラーニングを基軸とした実践的なカリキュラム構成とし、「教える」ための技術の修得を目指したプログラムです。

テーマ別に7つの講座があり、実務家教員としての基礎教養、実務経験や技術力を教育コンテンツとして言語化・形式化する方法、傾聴力と話し方、授業デザイン、教材作成、様々な教授法や学習評価法について学ぶとともに、高専生へ向けた教育実習では実務家教員としての実践を経験します。プログラムの全課程を修了し、建設(社会基盤の整備及び維持管理)を専門領域とする実務家教員として適格と認定された方には、『専門教士(建設部門)』の称号を付与しています。修了生は、高専など高等教育機関の非常勤講師や業界内・企業内の講習・研修講師等として、幅広くパラレルキャリアを形成しています。また、修了生の継続的な学びと交流の場として「JP-REIMラボ(インフラメンテナンス分野の実務家教員による実践研究会)」を定期的に開催する他、高専のキャリア教育・リカレント教育で活躍の場を提供する等、継続教育にも力を入れています。

本プログラムが、教える・伝えるべき技術力を持つ建設技術者の皆様の元へ届き、新しい学びと発見、成長のきっかけとなることを願っています。

実務家教員の「経験」と「学術知」を社会の財産に



大学等と実務家教員のためのマッチングサポートとは

大学等と実務家教員のためのマッチングサポートとは、大学教育力を身に付けるための研修プログラム「実務家教員育成研修プログラム」の受講者・修了者と、大学等（大学、短期大学、高等専門学校、専門職大学、専門学校など）高等教育機関とのマッチングを支援するサイトです。

※「実務家教員育成研修プログラム」は、本パンフレット（ページ13、14）で紹介されている4つの研修プログラムです。

マッチングサポート
Webサイト



<https://matching-jitsumuka.jp/>

マッチングサポートの便利な機能

ポイント
1

求める人材を検索

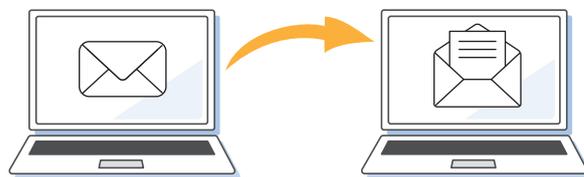


現職情報・職歴・受講したプログラム名称など複数の項目で人材検索することができます。

※登録者によっては情報を一部非公開としている場合もあります。

ポイント
2

気になる人材に直接オファー



求職者と直接やりとりができるので、ミスマッチを回避し、素早く採用活動を進めることができます。

ポイント
3

貴学の公募情報を配信

〇〇大学
実務家教員募集
専門分野〇〇〇〇
勤務地〇〇〇〇
応募資格〇〇〇〇
待遇〇〇〇〇



求人内容、専門分野、勤務地、応募資格、待遇など、詳細まで記載し、求人公募情報をいつでも登録することができます。

ポイント
4

ご利用は完全無料



サービスの利用は完全無料のため、コストをかけずにスムーズな採用活動を行うことができます。

登録方法

1 STEP

マッチングサポート・ウェブサイトにて「閲覧・採用者用アカウント」を新規登録します。

2 STEP

事務局にて申請アカウントの確認を行います。担当者及び機関等の確認のため、お電話させていただくことがあります。

3 STEP

内容確認後、事務局からメールが届きます。

4 STEP

登録完了となりましたら、マッチングサポートのご利用を開始いただけます。トップ画面よりログインしてください。

マッチングサポート
に関する
お問い合わせ先

一般社団法人 教育人財開発機構

〒107-0062 東京都港区南青山3-13-18 313南青山ビル

TEL: 03-6273-8840 (代表) Email: info@ohrde.or.jp

※ 文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」にて東北大学が作成し、一般社団法人教育人財開発機構と共同で運営